



# ニンニクをかけ橋に!!

よりあいつうしん

よりあいの森がある地域では月2回『サロンなごみ』が開催されている。よりあいの森と元民生委員の宮野さん宅で交互に開催している年寄りのために開催する時もある。そのサロンの送迎をよりあいの森は担当している。

この日は一人のお年寄りをお迎えに行き、宮野さんをお迎えに行き、宮野さんがお年寄りのために入っている。

『サロンなごみ』先に到着していた松田さんが柳田さん、なかなか来ないわね。忘れているのかしら」と心配し始めた。柳田さんは、「そんなことないわよ。昨日、メモを持っていつて伝えたから」と言つてはいたが、「けどね、私も勘違いする事もあるのよね。この間も祭りを、すつかり忘れていたね」と少し恥ずかしそうに話した。

「そんなこともあるのよね」

では月2回『サロンなごみ』が開催されている。よりあいの森と元民生委員の宮野さん宅で交互に開催している年寄りのために開催する時もある。そのサロンの送迎をよりあいの森は担当している。

この日は一人のお年寄りをお迎えに行き、宮野さんをお迎えに行き、宮野さんがお年寄りのために入っている。

『サロンなごみ』



始めた頃に、柳田さんは「ごめんなさい」と申し訳なさそうに入つて来られた。「噂をすればなんとかね」と忘れないなかつたこと

に智子さんはホツとした様子だった。柳田さんは、席に座るとすぐに話始めた。

「この間ね、庭のニンニクに水やりをしにいったら、壊れた扉が直つていたのよ。誰が直してくれたのかしら」と不思議な話が始まった。

皆で推理が始まつた。

「この間、送迎してくれたのは、堀さんよね」「けど壊れたのは、その後のよね」「じゃ、城取さん?」「ニンニクをお世話してくれる人かしら?」

と皆で考えたが、結局、『誰』が修理してくれたのか、分からぬままだった。

始めた頃に、柳田さんは「ごめんなさい」と申し訳なさそうに入つて来られた。「噂をすればなんとかね」と忘れないなかつたこと

に智子さんはホツとした様子だった。柳田さんは、席に座るとすぐに話始めた。

「この間ね、庭のニンニクに水やりをしにいったら、壊れた扉が直つていたのよ。誰が直してくれたのかしら」と不思議な話が始まった。

皆で推理が始まつた。

「この間、送迎してくれたのは、堀さんよね」「けど壊れたのは、その後のよね」「じゃ、城取さん?」「ニンニクをお世話してくれる人かしら?」

と皆で考えたが、結局、『誰』が修理してくれたのか、分からぬままだった。

年末年始は1人だけ、家族集まつて温泉に行くわ」

山田さんは、「娘家族がいる岡山に26日から1週間ぐらいい帰つてくるわ」

智子さんは、「息子が年末から1週間ぐらいい帰つてくる」と言っていた。

柳田さんは、「年末年始の過ごし方

27号

発行元  
よりあいの森  
つうしん課  
〒814-0104  
福岡市城南区別府  
7丁目9-22  
☎092-845-0707

「年末年始の過ごし方」  
宮野さんが、「皆さんに聞きたいことあるんだけど。年末年始はどう過ごされているかな?と

思つて」と問いかけた。

柳田さんは、「年末年始は1人だけ、家族集まつて

温泉に行くわ」

山田さんは、「娘家族がいる岡山に26

日から1週間ぐらいい帰つてくる」と言っていた。

智子さんは、「息子が年末から1週間ぐらいい帰つてくる」と言っていた。

柳田さんは、「年末年始の過ごし方

宮野さんは、「皆さんに聞きたいことあるんだけど。年末年始はどう過ごされているかな?と

「楽器みたいなもの」



そこにあつたのは「楽器」ではなく、「掃除機」だつたのです。思わず笑いをこらえきれない職員。力スミさんもつられて笑いながら、「うーん、楽器じゃなさそうね。わからないうち、よりいで他の誰かに聞きましょ！」との事で、真相はいつたん持ち帰ることになりました。

「お年寄りと  
灯明祭へ

と先輩から言われ、わたくしと吉見さんと樋口さん二人で顔を見合つて「絶対にはぐれないようになりますね」と誓い合いました。

灯明祭とは、第2宅老所よりあいの近くにある小さな池で10月末頃に開催されているお祭りです。池の周りを地域の人たちが手作りした灯明がずらりと囲み様々な夜店も並びます。

第2宅老所もお祭りに出店するということで、先輩たちが夜な夜な準備を進めていました。

途中で唐揚げなども買いつつ、一周まわつてまた第2宅老所の出店のところに戻つてくると、吉見さんが「お腹すいやつた。さつき買ったものをここで食べたいね。」と言つたので、出店の横の空いたスペースで食べることに。灯明もお月様もきれいに見える場所で、唐揚げやちまきやクッキーを3人でおいしいおいしいといながら食べて、すっかりお祭りを満喫することができました。

編集後記

第2よりあいに、Divasのコンサートをお年寄りたちと鑑賞しに行つた日のことです。素敵な歌声や演奏を楽しみ、よりあいに帰つてきたカスミさんが嬉々として言いました。

「そういえば！うちにも『楽器みたいなもの』があるのよ！」しかし、それを聞いた職員は不思議に思います。（カスミさんの家に、楽器なんてあったかな？）と。真相を確かめるべく、後日、ご自宅へと迎えに行つた職員がカスミさんに尋ねました。

「先日言つていた『楽器みたいなもの』って何ですか？」

「楽器：ああ！こつちよ！ついてきてちようだい！」嬉しそうに小走りをするカスミさんの後ろをついて行く職員。カスミさんが案内してくれたその先は仮間でした。

「これ！ほら！なにこれ？」

「そういつて、赤い色の細長いものを指差すカスミさん。

そして、コンサートでウッドベースといふ楽器を目にした時に、カスミさんの中でその形状が自宅の「正体不明物体」と完全に一致したのだと思ひます。結果として、カスミさんが導き出した「楽器みたいなもの」は「掃除機」でしたが、その後も、迎えに行つた時の定番の掛け合いとして、カスミさんと職員との楽しみになつたのでした。

「今日は泊まる吉見さんと桶口さんと一緒に3人でお祭りに行つておいでよ」と声をかけられました。わたしは人が大勢いるお祭り会場にお年寄り2人と一緒に行くなんて自分にできるかな?と不安に思いましたが、行つてみると、お祭り会場まで車で送つてもらい、「3人揃つて無事に帰つてくれるよう」

それから池のまわりを一周してみようということになりました。夜もだんだん更けてきて、灯明がいつそうきれいに見えます。この日は月もとてもきれいに出でていて、樋口さんが何度も「あら、今夜の月は本当にきれいね」と感動していました。

わたしは9月にここに入職したばかりで、これまで介護の経験も全く無く、毎日なにがなんだかよく分からぬまま日々を過ごしながら（なにかお祭りがあるんだな。仕事が終わつたらちよつとふらりと寄つてみようかな）ぐらいに思つていました。

一榎「さん待三で！」  
　　と言いながら歩いている  
　　と、入り口からわりとすぐ  
　　のところに第2宅老所の出  
　　店がありました。お客さん  
　　がたくさん集まつていて、忙  
　　しそうに中華ちまきやピーナツ  
　　ツクリューキー や光るおも  
　　ちゃなどを販売しています  
　　見慣れた先輩たちの顔を見  
　　てわたしはなんだかとても  
　　ホッとしました。3人とも  
　　中華ちまきやクリューキーをそ  
　　れぞれ購入し、お二人は宅  
　　老所に残つて いる職員のお  
　　みやげもたくさん買つていま  
　　した。

お腹いっぱいになつたのか、吉見さんはソファにもいたれ半分眠つたような顔で「余は満足じや…」と幸せそうにつぶやいていました。

皆足な一す。小見。何日で常出もおける、もう  
じてさを止きな出もおける、もう  
と思ひます。未熟な面もあるから  
かどり思ひますが、これでよろしく  
お願ひいたします。

第2宅老所よりあい  
濱洲 ひとみ



## 介護職員・事務職員 募集中です

よりあいの森  
伊藤 実樹

宇老所よりあい・よりあいの森では、一緒にお年寄り達の暮らしを支えてくれる介護職員・事務職員を若干名募集しています。

ご興味のある方は、ご連絡ください。お待ちしております。